
僕らの話し合い

轟

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕らの話し合い

【Nコード】

N7067J

【作者名】

轟

【あらすじ】

あらすじ！？そんなものはございません。
ただ暇なら読んで下さい。

初めまして (前書き)

暇だから。作った小説第2弾。まあ読んで下さいな。

初めまして

「暇だね……。」

ケン達が冒険する星。いや、世界とはまた別の世界。

その世界であるポケモンが空に向かって呟いた。そのポケモンはミニリュウと言う種類のポケモンだ。

「そうだな。」

また別のポケモンも空に向かって呟いた。そのポケモンはヨーギラスと言う種類のポケモンだ。

暇なら何かしようか。

「作者さん!」

「あんたの出番はここにはないっすよ。さあ、帰った帰った。」

ひどっ!!何かしようよ。

「ケン達の方を執筆すれば良いじゃないすか。」

いやだよ。てか、何でケンの事を知ってんの？

「知らないっす。勝手に頭に入ってたんだから。」

「作者さん。何するんですか？この小説。」

作者の暇つぶし。

「ふざけんな。帰るぞ。」

「えっ、あっ、うん。」

こらこら。頑張ってくれたら褒美を上げるから。

「まじてか！？ならやる。」

あつかいやすい奴だ。まあ、それでは皆さん。轟の暇つぶしを始めます。

初めまして（後書き）

暇だから。作った小説第2弾。

内容は色んな事をコイツラと話すだけっす。名前はまだ未設定なん
で。とりあえずはミニリユウとヨーギラスで。

「よろしく。」

「よろしくな。」

では、次回も〜

話し合いのはじまりだ（前書き）

「な、何でこんなタイトルなんだ。」

知らない。まあ、いいじゃん。この作者が暇つぶしの為に書いた小説なんだから。

「まゝだゝ？」

ミニリユウ！ちょっと待て…。いや、もう始めていいよ。

「じゃあゝ。スタートゝ！」

話し合いのはじまりだ

さあ。やって来ました。暇つぶし小説。

「何だこれ？」

「楽しそう。」

さあヨーギラス君。暇つぶしをしようじゃないか。

今回の議題はこれ。

ポケモンってバグ多くね？

「はっ！？何！？ゲームの話！？」

そうです。ゲームの話です。まあ今回はゲームだけとさ。

「楽しそう。」

「お前さっきからそればかりだな！！」

「うん」

「うん じゃねえ！！！」

まあまあ。こらえてこらえて。では、まず1番目はダイヤモンド・パールから。

秘密の場所について

「秘密の場所？ああ。あの四天王のリョウの所で波乗りすると行ける所か。」

「でも、あそこでセーブすると動けなくなるんですよ。おもしろい」

「全然面白くねえよ！でも、何かもう一つあったよな。」

うん。まあ気にすんな。で、何であんなバグが起きたんだろうね？

「さあ？しっかしあれで未公開のダークライとかシェイミとかみんなにバレちゃったな。」

そうだね。なんか…。可哀相な気が…。

てか、あれバレたのか？

「さあ？」

「わんだほ。」

ミニリユウ！！帰って来い。現実に！！

「んで、他なにやんだよ。」

今日はここでお終い。次回もこのお題で行きます！

「議題じゃなくなってるし！！」

話し合いのはじまりだ（後書き）

1話がちょうミジケエ。

「しかもハンパな終わり方。何とかしろよ。」

無理だね。

「無理。」

「ミニリュウ！てめっ！どっちの味方だ!？」

「次話もよろしく。」

あ、今思い出した。ミニリュウは、でヨーギラスが、です。まあ、お分かりでしょうが…。

エメラルド（前書き）

「エメラルド？あんだどんな基準でタイトルつけてんだよ？」

まあ気にしない。皆さん。感想でも何でも来てちょうだい。

「そのパターンなんか見たような…。」

エメラルド

お久しぶりです。さあこの前の続きを始めましょうか。

「で今度は何のゲームだよ。」

それはエメラルドからです。

「エメラルド？何かバグあったけ。」

「あったよ。変わったのが。」

それはデータバグでポケモンが増えるバグなんです。

「へ。はつきり言う。ミニリユウ。全然変わってねーよ！ーむしろ便利だよ。」

「え。そうかな？」

まあ2人の会話無視して、ヨーギラス。このバグは便利じゃないんだよ。増えるだけじゃなく、減ったりする事だってあるんだから。

「ふん。まあどうでもいいや。」

そつですか…。んじやお題変えよつか。

みんな知ってる？

「あのさ。思ってたんだけど。お題要らなくね？」

うん！そう思う。なので、お題は無しにします。

「わ
」

「お前は何かしたいんだ？」

さあ？わかんないよ。彼女は何かしたいのかは。

「てか。俺さそろそろバトルをしたいんだけど。」

まだだね。まあ、頑張れば考えて上げるよ。

「わ
」

それじゃあ。

エメラルド（後書き）

「てか、真面目に書いてるのか？」

内容は不真面目であつても書くのは真面目さ。やつぱりどんな時もやるべきや。それが1番。

「ふん」

それでは

はじまり。(前書き)

はじまり。

では、どうぞ！！

「短すぎるだろ！！」

すみません。

「わ」

皆さん！！それでは！！

レッツ・スタート

はじまり。

さあ。今回は2話だけど、頑張った君達にご褒美を2つ差し上げよう。

「な、何だ！？何くれんだ！？」

「わゝ」

まずはゲストでケンのストーリーからケン君！！

「えっと…。だ、誰？」

「さあゝ」

まあ、彼は君の先輩です。なかなか強いかと。

「ふゝん。」

「よう！！初めましてだな！！」

「わゝ 初めましてゝ」

「よろしくな。」

ではいつも通りに話を進めましょうか。今回は何を話そうか？

「うゝん。ここでするのも難けどさ、俺らの話をするのは？」

俺ら？ああ、君の物語の事ね。いいよ。ここでしかない話があるから。

「ふ〜ん。ケン先輩は俺らよりちっちゃいっすね。」

「そだね〜」

まあ、それまでにして、ケンがいじけるから。
まずは、ケンの話のストーリーは今とは全然違うんだ。

「ちがうって〜」

「で、何が違うんだ？」

それはまず、火山編で疾風は仲間にならない。とか、火山編でケンはココロと離れ離れになるとか。

「えっ。俺は疾風と会わないのか〜。」

「ほ〜」

「随分違うな。」

さらに次に仲間になるのはシェイミだったんだ。

「えっ！？」

ストーリーの設定ではケン達は火山の噴火により、地面の揺れに巻き込まれて、そのまま山の山頂が崩れ、海に落ちる。
そしてココロと離れ離れになる。

ケンが次に着いたのが、シェイミの里。いや、草タイプの里だった。

ここまでだいたいのストーリー設定は考えられていたよ。

「ふうん。疾風の代わりにシェイミか。」

「わ。」

「随分と違うな。犯斗も後から決められたのか。」

まあ、そう言うこと。

「あれ？作者。今回は長くないか？」

そりゃあ最終回だもの。

あと、言える事は……。

「さ、最終回！？ま、まじか……。」

まじ。ご褒美あげるからいいじゃん。

「わかったよ……。」

話を戻してココロは再進化と言う能力を最初は持ってなかった。つて言う事だね。

「じゃあ。あの1話の始まり方は……。どう言う意味？」

あの風か……。あれはまたいつか書くよ。それではこの辺でお終い。

ではご褒美を……。
それは、

「ゴクリ……。」

君達2人の新小説を書く事です!!

「え、えーと。ま、まじ?」

まじ。

じゃあ頑張ってね。

はじまり。(後書き)

ヨーギラス

「お、終わっちったな。」

だからこそその始まりなんじゃないか。終わりすなわち、始まり。もしかししたら真の終わりなんて存在しないかもしれない。

「わゝ 意味不ゝ」

ひどっ!!

まあ、いいや。

皆さん。この話を読んでくれてありがとう!!
そしてこれからもよろしく!!

追伸。

既望があるなら…。
また続けるか。

このストーリーを。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7067j/>

僕らの話し合い

2010年10月10日21時39分発行